

■委員会開催

- 第4回 2025年5月31日土曜日 17時から19時 Zoom
- 第5回 2025年8月8日金曜日 18時から19時30分 Zoom

※適宜、Slackにて議論

■若手研究者への国際学会参加支援助成金

- 2025年度の採択者の報告をWebサイトに掲載した。
- 2026年度の募集を8月中に行う予定である。

■セミナー

第1回「出る本・出た本」

本学会の会員である松本さんが「労働者協同組合とは何か」、李さんが「市民的コモンズとは何か」を出版し、科研費等の助成により、出版記念セミナーを開催し、本学会は共催という形で協力した。

- 日程：2025年3月5日水曜日 16時から18時
- 会場：駒澤大学およびオンライン
- 出演：松本典子（駒澤大学）、李妍焱（駒澤大学）、都丸一昭（コトハバ）、橋本薫（前橋まちなかエージェンシー）
- 参加者：申込86名／実参加70名ほど（対面が30名、オンラインが40名）

第2回「出る本・出た本」

『入門NP0のガバナンスとマネジメント－ケースで学ぶ非営利の意思決定』（晃洋書房）について、4名の訳者がそれぞれの内容を紹介した。

- 日程：2025年4月17日木曜日 18時30分から20時
- 会場：オンライン
- 出演：石田祐（関西学院大学）、斉藤祐輔（宮城大学）、渡邊洸（カタリバ）、長谷川雅子（CS0ネットワーク）
- 参加者：申込51名+アーカイブ視聴希望1名／実参加40名ほど

国際学会参加支援助成金 採択者報告会

国際学会参加支援助成金に採択された方々に、助成の報告を兼ねて、それぞれの研究大会で発表した内容を、本学会向けに再演していただいた。

- 日程：2025年5月31日土曜日 14時から16時
- 会場：オンライン
- 出演：羅 歌、尾形紗希、許 晟源、寺下和宏、峯村遥香、一柳智子
- 参加者：15名（発表者6名、委員5名、会員等4名）

第3回「出る本・出た本」

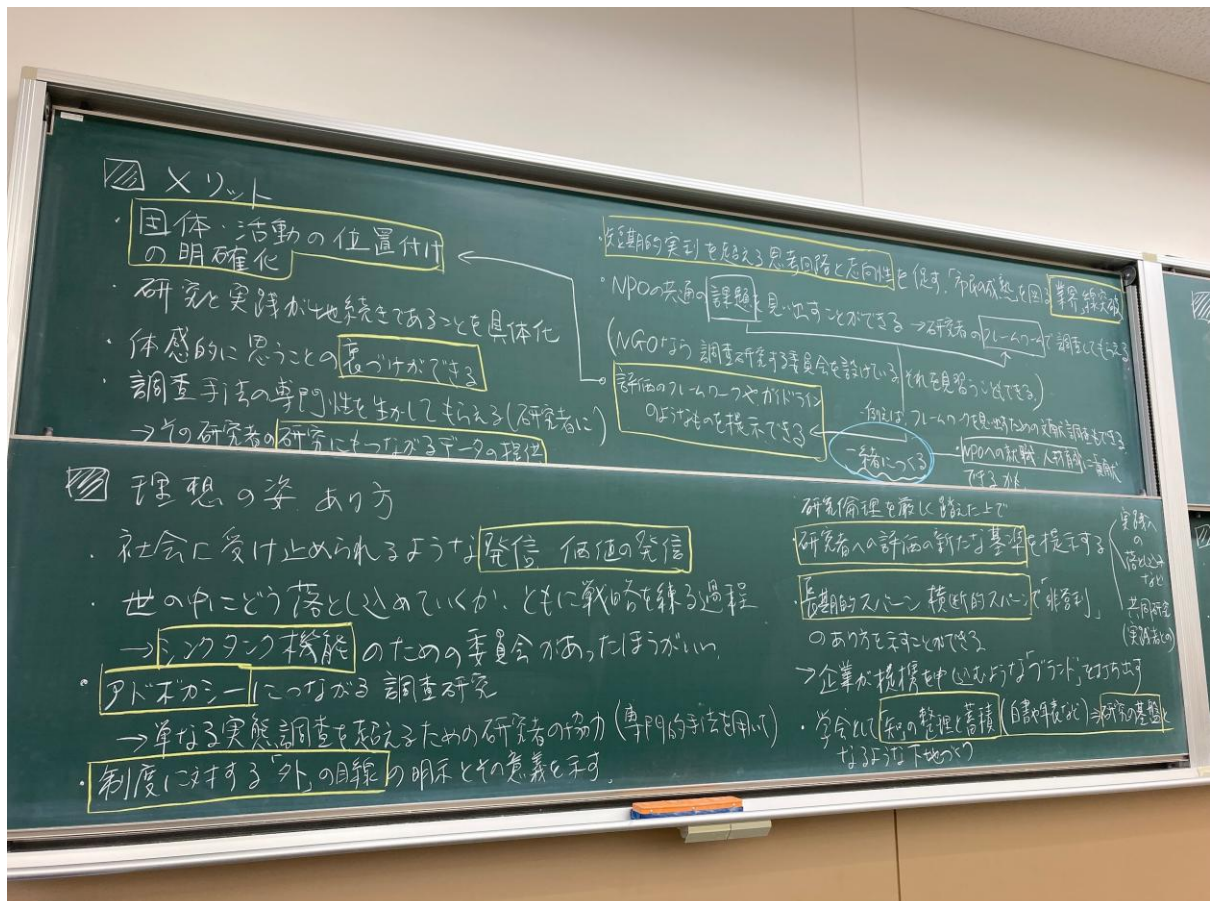
『NPO支援組織の生成と発展〜アリスセンターによる市民活動支援の軌跡』（有斐閣）について、著者が本書を紹介した。

- 日程：2025年7月24日木曜日 19時から20時30分
- 会場：オンライン
- 出演：吉田忠彦（近畿大学）
- 参加者：申込40名（支援組織：42%、NPO：16%、研究者：38%）／実参加30名ほど

■スタディグループ

スタディグループについて本学会の会員から意見等を聞くための場を研究大会にて開催した。

- 日程：2025年6月15日日曜日 14時20分から16時
- 会場：関西学院大学 G101
- 参加者：10名ほど



課題 (1人実務者兼研究者)

研究者は科研費で評価される。地域差と共通課題

人文社会は共同研究が少ない → 論文数で評価
論文たくさん書けない

国別の評価 ← 長い目で見たNPO研究(定量的観測)
調査結果の提示
だけじゃなく共有したい

実践者の発表が団体の広報のように → 研究者から作業方法を
プランクにつながる

研究者

- 評価
- テーマ対象

実務者

- 実利(短期的)
- 理論点裏付けが欲しい
- 提言に活用したい

提言

NPO研究所 → 学会が創出してほしい
研究のできる実践者
NPOの哲学
NPO白書、ニュース
① インタビュー
② お金を出す
③ 重要な研究の協同
④ 体面意識の低い
研究

研究テーマ → 系統

中間管理職と人材育成と承認
市民のコンパスと新時代研究のめざ
NPOの持続性、課題と効果
参加型学習の広がり、波及効果
NPOのキャリアパス
中間組織の変遷
NPOの事業とNPOの最前線
NPOの事業とNPOの最前線
理事会の機能、理事会と単独の団体
ボランティアと関係性
人材育成
NPOの事業とNPOの最前線
NPOの事業とNPOの最前線
NPOの事業とNPOの最前線

提言

NPO研究所 → 学会が創出してほしい
研究のできる実践者
NPOの哲学
NPO白書、ニュース
① インタビュー
② お金を出す
③ 重要な研究の協同
④ 体面意識の低い
研究

研究テーマの系統

NPOによる社会無形資産(形成)

自主事業をどうしていくか
需要をどう表現するか(表現の仕方や手段をどう表現するか)
→ インパクト評価は必要

制度形成にかかわる研究、歴史研究、法人制度研究

鬼門になる「政治」と「宗教」の研究 → 系統的にグループワーク、メンバー内替えから

見えにくい市民社会を「見える化」する
日本の市民社会の特性と強さを意識的に

本議論について、第5回の委員会にて委員が議論したところ、次の点について理事会に諮りたいという結論に至った。今回のメール理事会では議論することが難しいが、次回以降の理事会にて提議したい。

1. スタディグループのテーマを本学会が設定するとしたら、どういうプロセスで決めるのか
2. スタディグループを公募して、参加者が本当に集まるのか
3. 本学会が当該スタディグループに助成する以上、どのような成果を求めるのか